

第7回一ノ宮用水生きもの調査速報

西田一也（東京農工大学非常勤講師）

1. 目的

2015年11月23日（月、祝）午後に一ノ宮用水において、1）生息する水生生物相、2）これまでに行われた水路改修が生き物と水路環境に与える影響、の把握を目的に、約15名によって調査を行った。

2. 結果と考察

計16種類1127個体の生き物が採集された（表1）。I1ではギンブナ、ドジョウ、カワリヌマエビ属、I2ではオイカワ、I3ではシオカラトンボのヤゴ、タモロコ、I4ではカワニナ属、アメリカザリガニが多く採集される結果となった。また、I2でのみカマツカ、コオニヤンマ、コヤマトンボ、ホンサナエのヤゴが採集された。前回調査に比べて下流の区間で魚類が多く採集され、越冬場として水深が大きく、抽水植物や橋による隠れ場所の多い下流の区間を選択していたと考えられる。生き物の生息に配慮して改修した区間（I3）では、砂泥の堆積および沈水植物の生育が前回に比べて進んでおり、改修後の変化あるいは回復が表れてきた可能性がある。なお、この沈水植物にはコカナダモの他に、ホザキノフサモとヒルムシロ科（エビモまたはササバモ？）が認められた。橋下区間（I2）には砂泥や落葉落枝が堆積し、やや浅化（30cm）していたが、ここでのみ採集されたカマツカとヤゴは堆積した砂泥・落葉落枝を利用していたと考えられる。今後も生物相および水路環境がどのように安定するか明らかにしていきたい。

表1 水生生物の採集個体数

No.	種類名	I1	I2	I3	I4	合計	備考
1	ギンブナ	31	3	9		43	
2	オイカワ	1	6			7	
3	タモロコ	15		18	11	44	国内外来種？
4	カマツカ		1			1	都・準絶滅危惧種
5	ドジョウ	39	10	11	3	63	国・情報不足種
6	シオカラトンボヤゴ	4	4	25	13	46	
7	コオニヤンマヤゴ		1			1	
8	コヤマトンボヤゴ		1			1	
9	ホンサナエ		1			1	都（南多摩）・準絶滅危惧種
10	アメンボ	3				3	
11	アメリカザリガニ		1	3	42	46	国外外来種
12	カワリヌマエビ属	525	6	24	304	859	外来種
13	シジミ類				1	1	台湾シジミ？
14	カワニナ類		1		8	9	
15	モノアラガイ科？		1			1	
16	ヒル類	1				1	
	合計	619	36	90	382	1127	



カマツカ



ホンサナエ



コオニヤンマ